

特集

2

始動！理系女性教育プログラム

理系女性教育開発共同機構

1

新しい教養教育科目「パサーージュ」を受けて

「対談」パサーージュ担当教授×在学生

池田 汐里(いけだ しおり)
文学部人文社会学科
文化メディア学コース4回生
出身校:静岡県立掛川西高等学校

奥山 美幸(おくやま みゆき)
文学部人文社会学科
文化メディア学コース4回生
出身校:京都教育大学附属高等学校

新しい教養教育科目「パサーージュ」を受けて

〜教養教育の大幅見直しと再編成〜

奈良女子大学は、高度な専門教育と共に教養教育を大切にしている大学です。教養教育をさらに充実させるために、今年度より新しい教養教育科目「パサーージュ」(ミニゼミ)が始まりました。今回は担当の西村教授と三成教授、受講生の岩永さんと中野さんの四名に、パサーージュへの思いや感想を話していただきました。

※「パサーージュ」とは

入学してすぐの学生に、自分で選択した少人数のセミナーで、大学の研究や「大学の先生＝研究者」という不思議な人たちに出会ってもらうための授業です。フランス語で「移行」「街路」(特にパリのアーケード街)を意味する言葉に、高校から大学への移行路であり、大学の学問のショーケースという趣旨をこめて名付けました。

※18科目の「パサーージュ」の主題から

- ・夏目漱石『坊っちゃん』に見る百年前の日本語
- ・「私」はどのようにつくられてきたのか?—学校と教育を語り直す
- ・アインシュタインの学問と思想
- ・遺伝子組み換え技術とどう向き合うか?—実践者として?受益者として?反対者として?
- ・食べ物の生物学
- ・既存建築物の再生と活用—身近な生活環境を見直す etc.



教員の専門研究を通じて「大学」と出会うパサーージュの様子



対談後、大学中庭で撮影



特集 [対談]パサーージュ担当教授×在学生
新しい教養教育科目「パサーージュ」を受けて
〜教養教育の大幅見直しと再編成〜

特集 理系女性教育開発共同機構
始動!理系女性教育プログラム
〜全学生に理系マインド そこから
生まれる新しい女性リーダー〜

- 06 ▶
- 08 ▶ 教養広場
- 12 ▶ わたしのチャレンジ
- 13 ▶ 卒業生からのメッセージ
- 14 ▶ 教員著書紹介
- 16 ▶ クラブ紹介・学生表彰・国際交流
- 18 ▶ 就職情報・入試情報・公開講座

パサーージュを受講した感想

岩永さん 高校時代に、大学の授業の模擬体験としてティスカッションをしたことがあります。表面的な日常会話と違い、二つのテーマに真摯に向き合った話を聞くうちに、同世代の友人たちが内心では同じようなことを感じていると初めて知り感動しました。本学入学後、私が参加したパサーージュの授業は、九人の少人数で口の字形に座り、自己紹介から始まりましたが、一人の発言からどんどん話が膨らみ、先生を交えて議論が続いていき、様々な気づきを与えてくれます。高校までの授業とは全く違うスタイルに、これが大学ののだと感じ、刺激を受けています。

西村教授 その感想は嬉しいですね。「大学」を体験してもらいたい、というパサーージュの狙いどおりです。パサーージュのポイントは、まず少人数であること。皆さんにたっぷり話してもらい、丁寧に聞くことができるという点です。もう一つは、ただ漫然と話すのではなく、きちんとした土俵があることです。その土俵とは、それぞれの先生の専門の研究です。高校までの学習では教える側と教わる側に分かれていましたが、大学はそもそもその研究の場ですから、そこでの教育は、あくまで研究を通じた学びであるのが本来の姿です。

岩永さん 議論の先に「正解」がない分、とまどうこともあり。でも、それが大学の醍醐味だという実感もあります。
三成教授 高校までのテストや受験では、いかに正解を求めるかが教育の目標になってしまいましたが、大学の教育は決して正解を導き出すことだけが目的ではありません。研究によつては正解が二つとは限りません。考える過程を大切にすること。パサーージュはそれを目指しているので、ゴールを決めずに楽しんでください。

西村教授 確かに私のパサーージュも、最後の着地点はまだ決めていないのですよ。皆さんとのやりとりの中で結論は変わっていくかもしれません。
三成教授 着地点が見えなくても、最終的に繋がってくるまでの試行錯誤を大切にしてください。学生が楽しむだけでなく、パサーージュやゼミは我々教員にとっても楽しいものです。皆さんと一緒に作り上げていく過程を、私も楽しんでいます。

西村教授 高校までの教育が、わかっていることを知識として得る場だとすると、大学は、そこから先のわからないことを研究していく場です。私たち教員は研究者として、そのことを自ら楽しんで研究しています。その楽しさ、面白さの端を、パサーージュでぜひ体験してほしいと思います。



三成 美保(みつなり みほ)
生活環境学部 生活文化学科
教授
【専門分野】ジェンダー法学・ジェンダー史・西洋法制史

パサージュ開講の経緯

中野さん 私はパサージュを楽しく受講していますが、先生方ご自身は、大学時代の教養教育をどのように感じていましたか？

西村教授 私たちの頃は、人文科学・社会科学・自然科学の三領域の教養科目を必ず十二単位ずつ履修しなければならず、二回生まで教養科目がメインでした。面白くて毎回欠かさず出席して熱心にノートをとった講義もある反面、先生の顔を知らずに単位を取ったものもあります。このシステムの評判はあまりよくなく、大学の設置基準が変わったのをきっかけに、教養教育はなし崩し的に縮小され、重視されなくなりました。しかし近年、やはり教養教育は大事ではないか、という問い直しが行われるようになり、あちこちの大学で教養教育の再構築が模索されています。本学でも、あらためて教養教育を大切にしたい、ということになり、その理念——「奈良女子大学的教養——五つの問いと七つのアプローチ——」を確立しました。そして、それを具体化するために開講されたのがパサージュなのです。

三成教授 私も強制的に教養科目をとらな



西村 拓生(にしむら たくお)
文学部 人間科学科 教育学・人間学コース
教授(教育システム研究開発センター長)
【専門分野】教育哲学・教育思想史・臨床教育学

西村教授 お二人が異口同音に言った、パサージュで知識が「学び」に変わるとのこと、「腑に落ちる」ということ、それがまさに教養だと思っております。私の学生時代の教養課程とは、三十六単位の知識を身につけたら、それが教養だ、というイメージでした。確かに知識は大事ですが、知識そのものは教養ではありません。単なる情報の集積に過ぎません。では教養とは何かというと、知識の使い方です。大切なのは知識の量や幅ではなく、それをどれだけ使いこなせるかという「機能」なのです。領域や実体ではなく機能

ければならない状況下で同じ経験をしました。例えば社会学は高校までない科目なので面白かった印象がありますが、反対に高校までの授業を少し深めたような科目は、あまり面白いとは感じませんでした。また百人ぐらいから、場合によっては五百人もの学生を相手に先生が一方的に講義する内容をメモするというのが当時の教養教育によくあるスタイルでした。それが三回生になり、少人数のゼミを体験して初めて大学の授業の楽しさを知ったのです。そういうゼミの面白さを早いうちから体験したかった、という先生方の経験に基づいた思いが、今回のパサージュの開講に繋がったのではないのでしょうか。

西村教授 パサージュについては、上級生からも羨ましいという声があがっています。

中野さん 先生方からのアプローチは狙い通りに進んでいるようですが、では実際パサージュを担当された先生方から見ると、私たち学生の様子はどのように映っていますか？

西村教授 私自身とても楽しいですし、学生さんたちも楽しんでくれているように感じます。ただ、まだ始まったばかりなので、さらに具体的に学生さんたちの感想を聞いて、改善していきたいと思っています。

岩永さん 楽しさの理由を考えると、他の授業で得た知識が「学び」に変わる場だからだと思います。一見関係のないことが、パサージュでの議論の中で繋がったり、わかる瞬間があります。他の学生の意見や話し方がヒントになる時もあります。そこで初めて自分自身が理解し、納得して、本当に身についたという感覚があります。もう一つは、他者への興味が湧くことです。議論の中で、ある人が話した内容に興味を持つと、今まで気にならなかったその人の日頃の行動や言葉に関心が生じます。そのような体験が自分の世界を広げ、社会への関心に繋がっていく気が

としての教養、という根本的な発想の転換が「奈良女子大学的教養」の理念の根底にあるのです。

三成教授 「腑に落ちる」という経験と同じくらい「腑に落ちない」経験というものも大切で、どんどんしてほしいですね。それをきっかけに問題提起をして、考えて、議論していけば、知識の共有や発見に繋がります。その一連の作用が既に研究であり、私たちを豊かにする教養になります。

西村教授 だから「奈良女子大学的教養」の理念は、あえて「これが教養です」という形では示さず、五つの問いに一緒に向かい合い七つのアプローチで追求していく過程を通じて、結果的に身につくものを「教養」と呼びましょう、としたのです。

教養教育は専門教育の基礎ではない

岩永さん 高校生の頃は、教養課程は専門課程の土台となる学習をするのだと漠然と思っていました。ところが入学後、そうではないと知り、ではどういう意味なのか、自分なりに考えてみました。振り返ると私には高校時代に勉強方法の転換がありました。二年生まではテストごとに狭い範囲を集中的に学習していましたが、入試を控えた三年生になるとそれでは対応できなくなり、多くの教科を常に広く取り組むようになりました。すると、別々の教科の内容がいろいろな場面で繋がっていることに気づくようになりました。一つの繋がりを発見すると面白さが増し、様々な教科にわたって関心が広がりました。それは、まさに今パサージュで体験していることと同じだと思います。

西村教授 専門分野の学びや研究では深く掘り下げたものが評価されますが、理学部の先生のお話を聞くと、たとえば生物を深く

します。

三成教授 確かに日常生活では、自分と波長の合う友人同士の付き合いが中心となりますが、授業では全く接点のない仲間と話さざるを得ない状況で、思いも寄らなかった出会いや発見があるかもしれませんね。

西村教授 私のパサージュでは、本学の附属小学校を見学して話し合ったのですが、例えば教室の時計が正面ではなく横にあることに気づいた人の発言が、別の人の部活の練習のスケジュール管理の話につながり、そこから、人間は時計を意識した方が集中できるのか、その逆なのか、という時間経験のあり方をめぐる興味深い議論が展開されたりしました。

中野さん 大人数の授業では、先生が白板やパワーポイントを使って一方的に知識を教授し、私たちはひたすらノートを取るといった、いわば一方通行の世界になります。その際、私の中に生じた疑問や意見は、結局口に出す機会がないまま終わることが多く、もやもやとして残るだけなのですが、パサージュでは少人数で口の字型に座り、議論が中心になる

奈良女子大学の教養教育の理念

『奈良女子大学的教養 —5つの問いと7つのアプローチ』

【5つの問い】

- 1 大学ならではの学びとは何ですか？
- 2 女性ならではの知というのはありますか？
- 3 奈良で学ぶことを通じてあなたは世界にどんな貢献ができますか？
- 4 大学で学ぶことはあなたと未来の世代の人たちにとってどんな意味がありますか？
- 5 あなたがよく生きるために必要な知と技は何ですか？

【7つのアプローチ】

- 1 知の創造に参加する
- 2 社会的実践に飛び込む
- 3 本物に触れる
- 4 背伸びする
- 5 しっかり書く
- 6 問いをあたためる
- 7 他者と学ぶ、他者から学ぶ、他者を学ぶ



中野 菜穂子(なかの なほこ)
文学部1回生
出身校:京都市立城南商業高等学校

ため、大きな知の世界を皆で共有している感覚があります。色々な視点からの意見を聞くうちに、自分の中にあるもやもやがすっと腑に落ちるのです。議論は自由に展開され、様々な意見が出るにもかかわらず、不思議なことに、ふわとした体感があります。共有した知識が口の字型の真ん中にふわと浮かんでくるような感覚です。そこがパサージュの面白さです。

三成教授 ゼミにも色々なタイプがありま



佐伯 和彦
理学部 化学生命環境学科
教授

遺伝子操作は反対」という意見でも十分です。一体何が怖いのか、自分自身根拠が曖昧な状態であっても、その正体を探りたいという興味があれば議論は深まるはず。理系の学生にすれば研究成果への理解を得ていく上での表現訓練の場となるでしょう、表現力や文章力に強い文系の学生にとっても、理系分野に対する正しい認識や理解は決して無駄にはなりません。本学で共に学んだ仲間として、互いの存在は大きな財産になり、ひいては社会貢献にも繋がることでしょう。今回はアンチテーゼを唱える文系学生にも、是非参加してほしいと期待しています。

理系パサージュは・・・

私は分子生物学の分野において、組み換えDNA技術の研究をしています。パサージュでは本来私の研究と関係の薄い文系の学生にも参加してもらい、一般的に異論の多い組み換え遺伝子についての疑問や意見を聞きたいと願っていましたが、今年度は元々この分野に関心があり、積極的に取り組みたいと希望している理学部の学生のみという結果になりました。そもそも教養科目として開設されたパサージュは専門に拘らず、広い情報、意見、感想を述べ合い、社会の実態や価値観等から議論していく中で、文系理系の垣根を越えて共通の認識、知識の共有が出来ることを理想としています。

例えば入口は、世間一般の組み換え遺伝子に対する『なんとなく怖いから、

始動！理系女性教育プログラム

～全学生に理系マインド

そこから生まれる新しい女性リーダー～

今日、科学技術の更なる進歩への期待が高まるとともにさまざまなリスクに向きあうことも必要な時代が来ています。そのような状況にあつてわが国でも、男性のみならず女性の理系リーダーの活躍が喫緊の課題となっており、本学ではこれに因應べく新たなプログラムを始めました。そこで、このプログラムの推進を担っている吉田信也教授にお話を聞きました。



タブレットPCや電子黒板を完備した新教室でディスカッションする学生たち

理系女性教育開発共同機構を立ち上げました

本学ではこの4月から「社会に出るまでに知っておきたい科学」という授業科目を開設しました。まずは、「16世紀文化革命」をテーマとした授業を受けた、ある受講生の声をお聞き下さい。

「芸術と科学の関わりは歴史が興味深かった。今日の講義の内容だと、医学よりも芸術のほうが人体解剖に積極的だったようなのが意外でした。また現代では、学問と芸術は切り離されて考えられることが多いのですが、歴史をたどればどちらも同じ目標のために研究を重ねていたようです。私は、物理も絵を描くこ

とも好きなので、絵画と科学の新たな融合がでないか考えてみようと思います。」

このようなユニークな着想が生まれた経緯を説明したいと思います。

奈良女子大学はこの度、理系女性リーダーを育てることを目指して「理系女性教育開発共同機構」を立ち上げました。世間では「理数離れ」が言われていますが、小学生段階まで遊ばれば、実は理数が好きな子どもたちは男女を問わずたくさんいるのです。それが、中学校・高等学校と進むにつれて嫌いになっていく。そして、理工系分野への女性の進出が、世界的に見ると非常に低いという傾向が生じてきます。これらを解決するためには、中学・高等学校における理数教育

の見直し、および大学入試と大学における理数教育の根本的な再検討が必要です。

そこで、本学とお茶の水女子大学が連携してこの共同機構を設置し、全学生に理数の素養を身につけるチャンスを提供するとともに、理系女性リーダーを育てる取り組みを始めたのです。冒頭に紹介した学生の言葉は、この狙いの一環として開設された新設科目の効果も早くも現れたことを示しています。そこに示されているのは、文系と理系を分ける発想がいかに硬直した不毛なものであるかということです。あえて両者を分けるとしても、文系は理系的思考によって、理系は文系的思考によって基礎づけられることで、ともに高く飛翔できるということ

忘れてはなりません。

共同機構ではまず理系進路選択の可能性を拡大するために、保護者・学生・教員へのアンケート等による意識調査の実施や、進路相談・セミナーの場を利用して、理数離れ理数嫌いの原因を探ります。また大学合格のみを目的とした勉強で興味が薄れ、理数嫌いになっていく子どもたちには、科学の世界はそれだけではないということを発信していくとともに、理系女性のロールモデルも発掘していきたいと考えています。

こうして理数離れの実態や原因が究明されても、大学の教育改革だけでは解決出来ません。そこで必要となるのが、前段階である中等教育における次のような改革です。

中学校・高等学校の理数教育のモデルを開発します

奈良女子大学には六年一貫の附属中等教育学校があります。高大連携に基づく教育実践の場になってきましたが、2005年にスーパーサイエンスハイスクール(SHS)の指定を受け、ひと足早く新しい形の理系教育に取り組んでいます。

物理・数学を苦手とする文系の生徒も在籍していますが、全生徒を対象に独自の授業を開講し、成果を出しています。たとえば「コクキウム」という学校設定科目を開講し、リベラルアーツの涵養を目指しています。

私は昨年度このコクキウムの講座として「文化としての数学」を開講しました。授業

は教師との対話によって進められ、生徒達は講座の後半に、興味を持ったテーマを自由に探究し、まとめ上げます。「数学は無敵をどう扱うか」「奈良の算額」「日本列島を襲う大地震と数学」「統計学的見地から見たイチローと松井秀喜」等、実にユニークなテーマを見るにつけ、彼らが日常生活や文化に根差す数学の存在に気づいてくれたことを実感します。

これらの教育実践を基に、本共同機構では従来の文系・理系に分けた授業モデルではなく、生徒が理系進学への関心を維持できる「魅力的な理数教育の創造」を目指した授業モデルを提案します。そして教材やカリキュラムの開発も行います。開発された新しい文理融合教育のモデルは全国の高等学校

へと発信し、本学ではさらにそれを引き継ぎうる新しい大学教育を次のように実践していくことになるわけです。

全学生に理系マインド

そこから生まれる新しい女性リーダー

その第歩は、リベラルアーツとしての理数

教育の開発です。これは先述の中等教育学校における科学教育をさらに展開し、ストーリー(文脈)のある理数教育を目指すプログラムです。冒頭で紹介した新科目「社会に出るまで知っておきたい科学」では、16世紀文化革命や宇宙、身の周りの生活家電を題材に、人類の文化としての自然科学と、その思考法の歴史を学びます。10月に開講されるのは「科学の言語としての数学」です。数学が科学の言葉であり有用でもあることを、講義だけでなく、作業や実験も含めて実感してもらいます。さらに、「数学の美しさ」についても触れます。このような学習は、理系の学生にとっては他者への表現・伝達のトレーニングになり、文系の学生にとっては科学の意外な側面を目の当たりにする機会になります。こうして理系学生にはスベチャリストにふさわしい幅広い教養と発信力が、また文系学生には理系の知識と論理的思考力が身につけていくのです。

一見すると、ストーリー重視の学修への転換は、今までの理数教育の否定だと感じられるかもしれませんが、決してそうではありません。理系科目の問口を広げること、日常生活にも生かせるような科学的リテラシーを文系学生にも身につけてほしいのです。さらには科学の知識や論理的思考力を身につけることで社会に貢献できる人間が育つことでしょうか。私たちが目指しているの



吉田 信也(よしだしんや)
全学共通 教授(理系女性教育開発共同機構プロジェクトリーダー)
[研究テーマ]
ICT(Information and Communication Technology)を活用し、「文脈のある」数学教育の研究を行い、学習者が数学の学習内容の必然性を感じ、アクティブに学ぶことのできる授業の創造を目指している。その際、数学史も重要な視点の一つとして取り入れている。また、以上のような研究を基盤として、理数系を目指す女性を増加させる、中等教育と高等教育をつなぐ新しい科学教育の創出のための研究も行っている。
[担当授業科目]
社会に出るまでに知っておきたい科学-物語としての科学-、科学の言語としての数学

大学院の共同専攻も始動！

本機構とともに平成28年4月には大学院にお茶の水女子大学との連携による生活工学共同専攻を新設(設置認可申請中)する予定です。本共同専攻は生活科学をベースに工学を融合した新しい「生活工学」という分野を切り開くため、素材工学、情報工学、環境デザインといった専門分野を横断した研究を行います。本共同専攻では女子大初の工学に関する学位である修士(工学)、博士(工学)を取得することもできます。平成28年4月入学者の学生募集については設置認可後(9月以降)に公表します。HPにご注目ください！

※本生活工学共同専攻は設置認可申請中のため、上記内容は予定であり、変更する場合があります。

教養広場

理学部
数物科学科
物理学コース
准教授

宮林 謙吉

みやばやし けんきち



年あたりからなるので、その準備も始めています。

—— 今までの研究内容と成果は？

Belleと愛称のついているBファクトリー実験の中でも二つの系統の研究に携わることができました。

「CP対称性の破れ」を測ったことによつて、小林・益川理論が正しいことを立証し、ノーベル賞につながったということが挙げられます。このようなデータ解析は一人で出来る作業量ではなく、たいへん手数がかかります。当然チームを組んで解析をするのですが、その一員として貢献できたことは嬉しく思います。

その解析を担当するチームの世話役が別のプロジェクトに移られたので、そのあとを継いで現在は私が担当しております。その流れでこの四月からは、IBO帝実験の共同代表の二人をつとめさせていただいています。

もう一つは、エキゾ

ティックハドロンの研究です。例えば陽子や中性子だと、構成子として入っているクォークが三つで、湯川先生の理論で出てきたパイ中間子では、構成子として入っているのがクォークと反クォークの二個ずつで二体なので、しかしここ10年程の間に、これら一般的な二体や三体ではなく、四体あるいは五体入っているものがたまには

出来ているらしいということがわかってきました。事例は限られているのですが、それは測定器がとらえた崩壊の記録を再構成することで究明可能となります。そのためには狙いのエキゾチックハドロンを探すプログラムを組む。何日も加速器を運転して得た大量のデータを解析してヒストグラム度数分布を見ていくと、本当にできていけば、そこに現れてくるのです。

—— この研究の面白さは何ですか？

物質の一番小さな構成要素が研究対象なので、日常生活の五感に触れる世界とはかけ離れているように見えますが、冷静に考えると、日常生活で経験する様々な事象とぶと結びつく瞬間があります。一番基本的な構成要素のところどころこういうルールだから、身の周りで動いているこれらがこつこつと振る舞いをするのだな、という理解に繋がるわけです。

例えばLPレコードを思い浮かべてください。とても細かい溝に凹凸が刻んであり、精密な装置を使うと限りなく元の音に近い音再生できますね。以前それがとても不思議だという問いかけを受けたのですが、そ



研究室内に導入したデータ解析計算機システム。96個のCPUコアと140TBのディスクアレイを装備する。

の時にふと気づいたのは、レコードの再生は電気を利用してからのことなんです。すなわち電磁気学の理論に従って動くから成り立つのです。電磁気学では、相互作用の順序が可換であることや、複数の電荷がある時は個々がおよぼす力の和が作用するという重ね合わせの原理が厳密に成り立つことを学びます。そのことから、レコード盤面のあれほど小さな溝に刻まれた凹凸を針で拾い、コイルと磁石による電磁誘導で電気信号に変換し、それをアンプで増幅させて最後にはスピーカーから音が出るまでまきつちりとした相似形の関係が存在します。つまり、物理学を学ぶことで、目に見えないくらい小さい素粒子の世界の法則と小さな溝から美しい音色が生み出される不思議が本の線で結ばれ、理解できるようになるのです。こつこつと積み重ねが面白さに繋がっていきます。

—— 授業ではどのようなことが学べますか？

物理学は既に確立された学問体系が大きいので、基礎的な力学や電磁気学、量子力学や統計力学等を通りおさらいするのに3年

くらいかかります。これらの基礎はどのようなテーマを選択するにしても、全て大なり小なり基本的なこととして必要になってくるので、しっかりと身に付けてもらいたいと思います。また物理学の根底にある普遍的な法則というものは、元来万人にとって役に立つものなので、どのような世界に進むにも一助になり得ると考えますから、3年間基礎を学べる有難みを感じることが出来るでしょう。

4年生になると卒業研究に向けて、各々専門分野に必要な実地訓練が始まります。ここではテーマを絞り、担当指導教諭からより具体的な研究方法を学びます。

—— 先生がこの研究に進まれたきっかけはありますか？

高校生のころ、実は物理の定期テストの点数は必ずしも良かったわけではないのですが、高校時代に物理を担当しておられた恩師が、テストの点は良くはないが、物理のセンスがあると褒めてくれたのです。しかも理屈で勝負する数学や理論物理の世界より、実験中心の分野の方が性に合っているだろうという言葉に勇気づけられたことがきっかけです。特に、その先生が高校の授業の最後の方で量子力学の触りを齧らせてくれる機会があり、原子核の崩壊を題材として扱つのですが、寿命があるとか、真空との間でエネルギーのやりとりをすとか、その際感じた原子核や素粒子の動きの不思議さが与えた衝撃は決定的でした。

—— 卒業後の先輩たちは？

この研究室の卒業生の中には、大学院の博士課程を修了した後、研究者になった人も多く、高エネルギー加速器研究機構の加速器施設に3名就職しています。また数物連携宇宙研究機構の中に、先述した性能改良工事後のBファクトリー実験をするというグループが立ちあがって、そこに1名任期付ボ

シジョンに就いている者もいます。その他大学院の修士課程を修了した者は、住友電工や日立造船、東芝、三菱電機、日産自動車等、様々なメーカーに就職しています。

—— 今後の課題と目標を教えてください。

短期的には、性能改良工事の中で実験を成功させることです。それを5年から10年かけてデータ収集をして成果を出した後は、その次のプロジェクトを考えなければなりません。もっとエネルギーの高い加速器、リアコライダーを造るという計画があるのですが、それを実現するには予算がたいへん大きくなるので、さらに国際連携が重要になってきます。そのためにはこの分野における日本の実績を増やし、信用を高める必要があります。

私ももう40代後半になりましたので、やはり研究をするにも体力的にタフでスピーディーだ。30代前半とは違ってきたことを実感するにつれ、最近では後進の育成に関心が向いています。短期的にも長期的にも、夢を実現するには結局成果の積み重ねと継続が肝心なので、二つ、その時々にしかならないことを、手を抜かずに行っていくしかないですね。



理学部 数物科学科 物理学コース
准教授
宮林 謙吉 みやばやし けんきち

【研究テーマ】
高エネルギー物理学、特に高エネルギー電子・陽電子衝突型加速器における素粒子の実験的研究。主たる成果はBメソン崩壊におけるCP対称性の破れの測定とエキゾチックハドロン探索。関連して、無機結晶シンチレーターと半導体光検出器を組み合わせた電磁カロリメーター（ガンマ線検出器）の開発研究。

【担当授業科目】
学部：微分積分学演習、統計処理論、物理学特別実験、高エネルギー物理学概論
大学院：高エネルギー物理学・セミナー、微細構造計測学・演習 など

ゼミ生の声

研究室では、どのようなことを学んでいますか？

おのおの修士論文のテーマが決まったところなのですが、共通して加速器実験に関わるので、今は加速器を使うための基礎や技術的なことを学んでいます。Belle実験で加速器を用いて粒子同士をぶつけたものを検出し、その反応や今までにない反応はないかという観察実験を行います。この実験のために、茨城県にある高エネルギー加速器研究機構（KEK）に通っています。小林・益川先生がノーベル賞を受賞した「CP対称性の破れ」を検証する実験で、加速器の実用性を学んでいるところです。

この研究の面白さと将来の夢は？

日常生活では覗くことが出来ない世界に触れ、知らなかった宇宙や自然の法則を解明していくことに面白さや楽しさを感じ、この研究を選びました。将来は二人とも就職を希望しており、メーカーでの開発や研究を目指しています。

宮林先生は、どんな先生ですか？

とても面倒見の良い先生です。とても仲のいい研究室だと言われており、先生と学生の隔りがありません。例年催される研究室のコンパでは、先生が美味しい焼きそばを作ってくれます。先生は作る人、私たちは食べる人です！



大学院人間文化研究科博士前期課程 物理学専攻 1回生
左：武田 明莉（たけだ あかり）さん 出身校：大阪府立豊中高等学校
右：横山 紗依（よこやま さえ）さん 出身校：愛知県立半田高等学校

教養広場

生活環境学部
住環境学科

講師
室崎 千重

むろさき ちえ

——先生は奈良県十津川村で活動されているとお聞きしましたが、現地で取り組まれている研究について教えてください

今年の3月、奈良女子大学と十津川村は、産業や教育振興、人材育成などのほか、村の高齢者世帯の居住継続への支援を検討すること等を目的とした包括的連携協定を締結しています。私は平成24年の夏に本学に着任しましたが、前年9月に発生した紀伊半島大水害により奈良県南部は大きな被害を受けていました。地元大学として何かできることはないかと思ひ、奈良県庁に復興の現状を聞きに行ったことが、十津川村に関わりはじめたきっかけです。

過疎と高齢化の問題を抱える十津川村は、水害を契機として、将来を見据えた新しい村づくりを進めています。村の芯づくりとして自然災害を受けにくい2つの既存集落を選定し、災害復興公営住宅は被災前の集落内ではなく、この2集落に建設

を図るとともに、将来的には若い人の移住を促せたらと考えています。

——専門分野について教えてください

私は、歴史やライフスタイルによる人の生活と住宅の関わりをみる住生活学と高齢者や障がいのある方にも暮らしやすい環境整備を考える福祉住環境学を専門としています。常に根底にあるのは、生活者の視点です。住みやすさや使いやすさ、快適性などの住環境に対するニーズを捉え、変化する家族や社会の中でどのように住宅やまちを計画していけばよいかを研究しています。

具体的な研究テーマとしては、多様化する家族とこれからの住まいのあり方について、障がいのある人も暮らしやすいユニバーサルデザインの住環境整備について、高齢者が自宅で居住継続できる近隣環境について、などがあります。

——他には、どのような取り組みや研究が



触れる東大寺(触る観光のための地図)

されました。

また、日本一広い村内に点在する集落で暮らす高齢者の居住と生活支援のあり方を検討するために、本学と明治大学、大阪市立大学が合同で、高齢者の生活実態の調査を実施しました。住宅の周辺は急な坂道が多く外出が困難で、介護ヘルパーの訪問に片道1時間以上かかることも多いため、支援があれば自宅で自立して暮らせる高齢者も、施設に入居するか、村内の施設の順番待ちにより村外の施設に行かざるを得ません。そこで、高齢者の移住先として、見守りや生活支援を受けながら自立して暮らせる高齢者向けの住宅づくりが進められています。さらに出来るだけ自宅に永く住み続けられるように、いくつかの集落ごとに公民館や空民家などの資源を活用した生活支援活動の拠点をつくる構想も描かれています。

災害復興に関わる研究では、応急仮設住宅の入居者の住まい方実態を調査しました。十津川村では自宅は残っているものの、道路の寸断等により自宅での生活ができず仮設住宅に入居した人が多くいました。先祖代々の土地・家・お墓を守りたいという強い思いと、生活の一部である畑づくりを継続したい等の理由から、仮設住宅から自宅に頻繁に通う生活をする方が多くいることがわかりました。将来は村内での移住も想定されるので、これらの調査をもとに異なる集落に移住しても十津川らしい暮らしが継続できる方法を探っています。

将来の災害に備えて、応急仮設住宅のリアフリーを進めるための研究もしています。

ありますか

ゼミの学生と「障がい者も含めて誰もが一緒に楽しめる観光」というテーマで、「触れる東大寺」という観光マップを作成しました。観光というと、視覚中心の見る観光が一般的なので、視覚に障がいがある方は同じように楽しむことが困難です。また、見える人が見えない、見えにくい人を一方的に支援するのではなく、一緒に積極的に楽しめる観光方法にしたい。そこで、視覚に頼らずに、触覚で楽しむ観光方法を考えたいわけです。実際に視覚障がい者の観光に同行して学んだ触る観光の楽しみ方を活かして、作成された観光マップは、東大寺の豆知識やおススキの触りどころを掲載しています。触る観光をしながら、発見した触覚と似たシールを台紙に貼っていきます。この台紙のシールを触ることで触覚とともに思い出す楽しみ方は、視覚に頼る一般の方にとっても新しい発見があるのではないのでしょうか。視覚障がいの方にとっては、触覚で記録したア



生活環境学部 住環境学科
講師
室崎 千重 むろさき ちえ

[研究テーマ]
多様化する家族・暮らしと住要求、高齢者・障害者も暮らしやすい住環境、ユニバーサルデザイン、中山間地域の住み続けられる村づくり、共助コミュニティと団地再生

[担当授業科目]
住生活学、福祉住環境学、住環境造形演習、設計演習Ⅲ・Ⅳ、卒業研究

す。取り壊し前の木造仮設住宅をお借りして、車いす使用者や杖歩行者の入居を想定した動作検証を行いました。木造の利点として、木の心地よさに加えて身体能力に応じて後から必要箇所に手すりを設置しやすいということ等が確認できました。課題は、トイレやお風呂は、段差解消と動作空間を広く確保できる工夫が必要といえます。

その他に、本学と奈良県立大学が共同して同村の谷瀬地区の新たな集落づくりに協力しています。将来的な移住者の呼び込みも念頭に入れて、村内一の観光資源である「谷瀬の吊り橋」を訪れる観光客に集落の魅力も知ってもらおうと、集落内を歩く「ゆつくり散歩道」と吊橋の全景を一望する「展望台」が集落住民により整備されています。ゼミでは月に1回程度村を訪れて、集落づくりを考える寄合や諸々の活動に参加

ルバムのような役割も果たします。完成した観光マップは、ご協力くださった東大寺と奈良の観光案内所に50部ずつ置いていただきました。

本学への着任前には、公営住宅の住戸内のユニバーサルデザイン化提案に向けた研究をしていました。工事現場では、まだバリアフリーやユニバーサルデザインについての知識が不十分なことや、設計施工者に障がいのある方の暮らし方を知ってもらう重要性がわかりました。特に生活者視点での整備が必要になるのです。

高齢者や障がいのある方の住宅改修の相談を受ける中で、車いす使用者が使いやすいキッチン計画にも取り組んできました。車いす使用者が料理をすることを前提とした既製のキッチンカウンターはとも少なく、存在する商品も実際には使いつらい点がありました。快適に調理できる配慮や工夫を盛り込むために、車いす使用者と、作業療法士、理学療法士、建築士がチームを組み、実

際に調理動作を確認しながら具体的な提案を行いました。さらに機能性だけでなく、車いすでも普段の生活を生きいきと楽しめるような、おしゃれなデザインにしてほしいという要望にも応えています。モデル住宅内に創られた車いすで使いやすいキッチンは、見学に来た方に喜んで頂けるものとなっています。

——今後の課題や目標を教えてください

誰もが暮らしやすい住まいまちづくりを実現するために、生活者の視点から現状の様々な不具合を単に改良するだけでなく、改良のための仕組みづくりにも取り組んでいます。環境のマイナスイメージをゼロにするのではなく、快適さ・豊かさ・プラスされた環境に変えていく研究ができたかと思っています。地元の奈良での取り組みとして、今後も十津川村の復興と村づくりに長く関わりながら、社会環境の変化がある中で豊かな暮らしの継続を考えていくつもりです。

ゼミ生の声

室崎先生はどんな先生?

研究では厳しい一面もありますが、とても優しい先生です。フットワークが軽く、迷ったらとてりあえずやってみようというアクティブな面と、個人的な悩みや相談にも応えてくださる面倒見の良さもあり、私たちにとってお母さんのような存在です。楽しいときには思いっきり楽しみ、研究するときは集中する！ひとりで表現すれば、「できる女」です。私たちも先生を見倣って、メリハリのある女性を目指します!

どんな研究室ですか?

分野としては、住生活学や福祉住環境学を学んでいます。十津川村の子ども環境や車いす使用者の住環境など、それぞれ違うテーマで研究をしているのですが、共通しているのは、人の為に住環境で何が出来るかということです。理系的な要素もありますが、住む人の気持ちを考えたり、文献調べをするなど文系的な要素もあります。まちあるきや十津川村での体験など、ゼミ生みんなで外に出かけて、体験しながら学ぶ機会も多く楽しく活動しています。



室崎 研究室のみなさん お話を聞いたのは、前列左から日高紗彩(ひたか さや)さん 出身校:奈良女子大学附属中等教育学校 新美真穂(にいみ まほ)さん 出身校:愛知県立刈谷高等学校 杉浦佐知(すぎうら さち)さん 出身校:愛知県立瑞穂高等学校

わたしのチャレンジ

ファッションへの挑戦

「何わざわざ奈良に来たの？」と、東京出身だと話す度に必ず聞かれます。実際、高校3年生の夏休みまで東京の大学の進学を目指していました。しかし、幼いころからファッションに興味があった私は、衣服にかかわる事がしたいという思いが捨てきれず、奈良女子大学の衣環境学へ進路を変えました。

入学してからは、衣服について学ぶだけではなく、サークルや外部のファッションショー、作品撮りなどで実際に服を制作しています。沢山悩んでここに来たからには、興味のあることは全部やる、そしてやるからには後悔の無いように最後まで全力で取り組む、と決めて走り続けた2年間でした。とても忙しかったけれど、本当に充実した大学生活を過ごせています。

今、私はファッションサークルNaraColleの代表を務めています。私たちはモデル・クリエイター・ヘアメイクなどすべて部員自らやり、ゼロからファッションショーを創り上げています。昨年度に公式サークルとなつてからは知名度が上がり、部員数も増え、学外からも様々な情報やオファーをいただくようになりました。入学以前から入ることを決め、この2年間私のやりたいことを思う存分させてもらったサークルだった



谷口 朋子
たぐち ともこ
生活環境学部生活健康・衣環境学科
衣環境学専攻3回生
出身高校・東京都立武蔵高等学校

ので、今度は自分がこのNaraColleを運営する立場になったのだと思うと、不安はもちろんありますが、とても嬉しく、楽しみでもあります。

私たちのショーを見てくださる学内の学生や外部のお客さん、そして一緒にショーを創り上げる部員全員にとつて、衣服と触れ合う機会を増やし、自己表現やファッションの幅を広げたり、ファッションの楽しさを身近に感じてもらえたりするようなサークルにしていくことが今後の私の挑戦です。



'15 NaraColle 新歓ファッションショー

感謝を忘れず 努力することの大切さ

私は体育会剣道部に所属しています。昨年、奈良女子大学が近畿地区国立大学体育大会の主幹校になり、マネジメント役の主務である私を中心となつて、大会を運営しました。部員数49名の前年主幹校から「大会運営はたいへんだ」と聞き、剣道大会を初めて経験する初心者を含む部員13名で大会を運営出来るのか、とても不安でした。

大会の準備は、各種書類の作成、必要物品の手配、抽選会、審判依頼、会場設営等、多岐に渡ります。前年に定期戦を運営した際の反省を活かし、部員との情報共有を心掛けて仕事も任せていきました。また、先生方や学生生活課の方とも連絡を取りながら、準備を進めました。何度も

予期せぬ問題が発生しましたが、その度に話し合つて解決していききました。準備が進むにつれて団結力が強まつていくのを感じると同時に、毎年入賞を逃していたこの大会で入賞したい！という想いが強くなり、より一層稽古に身が入りました。



試合開始前の礼の場面



第52回近畿地区国立大学体育大会(剣道競技)



遠山 知恵子
とよやま ちえこ
文学部人間科学科
総合心理学コース4回生
出身校・大阪府立三国丘高等学校

の団体戦3位入賞を果たすことが出来ました。

今回、何事も、その裏では様々な人の努力と支えがあつて成り立っている」という事を痛感しました。たいへんではありませんが、それ以上に得るものが多く、とても貴重な経験でした。沢山の方々の支えがあつたからこそ、この大きなチャレンジも、何とか最後までやり遂げられました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

剣道部の活動を通して、困難があつても諦めずに努力すれば、必ず報われる、ことを何度も実感しました。これからも、些細な事にも感謝を忘れず、努力し続けていきます。

地球規模で考え 足元から行動する

私が「菜の花プロジェクト」に出会つたのは、1回生の夏休みでした。読んでいた環境問題関連の本の中で菜の花プロジェクトが紹介されていて、その取り組みの素晴らしさに感動し、「もし奈良県でも行われていたらぜひ参加したい」と思いました。

菜の花プロジェクトは1998年に滋賀県で始まつたプロジェクトです。その内容を大まかにまとめると、休耕田などに菜の花を植えて、その菜種油をまず食用油として地域の家庭や学校で利用し、その廃食油を石けんやバイオディーゼル燃料にリサイクルして地域で利用する、というものです。これは、単に環境に対する取り組みというだけでなく、輸入に頼りがちな食用油や燃料を地元で生産・消費するので、地域の経済を再生することにもつながっていきます。

菜の花プロジェクトを知つてから数日後に、奈良県でも同プロジェクトが行われていることを知り、ボランティアも募集されていたので、すぐにそのボランティアに応募しました。初めは1人で参加しましたが、2回目からは大学内の有志学生による環境サークルの仲間も誘つて行くようになりました。そしてこれまで、菜の花畑での種まき・除草作業・堆肥まきや、小学生対象の環境教育のお手伝いをしました。環境教育では、子ども達に



田中 そら
たなか そら
理学部化学生命環境学科
環境科学コース2回生
出身校・奈良県立郡山高等学校

野菜の絵を見せてその旬の季節を当ててもらつ、「旬当てゲーム」をしました。ゲームの後には、旬の野菜がなぜ「旬」なのかを楽しく学んでもらえるよう、自分で準備した絵を見せながら、易しい言葉で説明しました。私はこのプロジェクトに参加して、世の中を良くしたいという強い思いで活動されているたくさんの方々に出会いました。私もこれから、その方々に負けないぐらい力強く活動していきたいです。



2月の除草・堆肥まき作業の様子

卒業生からのメッセージ

商品に 想いを込めて

将来は人の健康に役立ちたい。高校時代にそう思い始め、自分が好きな食べ物、なら前向きにやっていたいけるはずと、私は食物について学ぶため奈良女への進学を決めました。在学中は、先生方の創意工夫あふれる講義を通じて食品工場の見学や企業の方の話や聞く機会に恵まれ、さらに教職課程や葉酸に関する研究生活を通じて広がりを感じました。恩師や友人にも恵まれ、奈良女での充実した6年間があつてこそ今があると思っております。

進路を悩み抜いた末、私は菓子メーカーの品質管理部門を経て、現在は(株)ヤクルト本社の開発部に所属しています。色々な岐路がありました。食を通じて人を笑顔に、健康にしたい、という想いは常に根底にあり、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献する、という企業理念に共感し、現在に至ります。現職では特定保健用食品の表示許可申請や新商品の安全性評価、学術広報などの研究開発管理業務を経て、本年4月から商品開発業務に就き、「ミルク」等の商品コンセプト策定やパッケージデザイン選定などに携わっています。また、女性社員で構成する部署横断の



淡路 比呂代
あわじ ひろよ
生活環境学部生活環境学科食物科学専攻
現株式会社ヤクルト本社 開発部
出身校・宮城県立宮崎高等学校

開発プロジェクト「三ツ星 Factory」の二員として、20・30代女性をターゲットとした商品開発にも参画し、公私ともに多忙な女性の悩み解決やこだわりを叶える商品作りに励んでいます。食・に関わる仕事は、人の口に入るものなので命に影響を与えるという緊張感もありますが、商品を通じて人を笑顔にもでき、健康を支えるという責任や喜びも大きく、やりがいを感じています。今後は奈良女での学びや経験を礎として、商品に想いを込め、人の笑顔や健康につながる仕事をしていきたいと思っています。



社屋にてメンバーの一部が集まりました

「オリンピックの遺産」の社会学
—長野オリンピックとその後の10年—

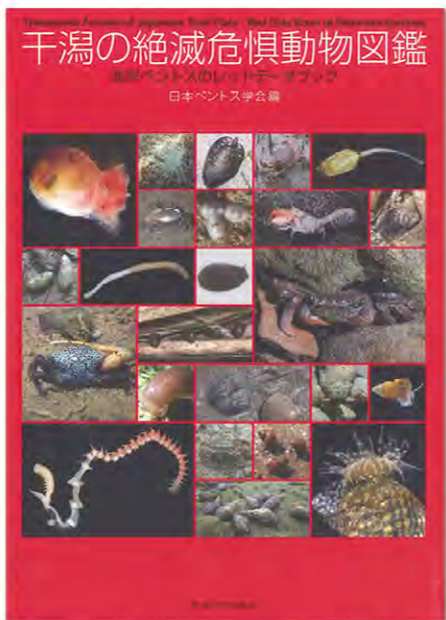


石坂友司 / 松林秀樹 著
生活環境学部
心身健康学科
准教授
青弓社
2013年11月発行
3000円(税別)

2020年に東京オリンピックハ
ラリンピックの開催が決まりました。
前回の1964年大会は高度成長と
の関係が深い大会でしたが、20年大会
はどのような遺産(レガシー)を生み
出すのでしょうか。東京大会を歴史
社会的に比較する視点も重要で
が、直近のオリンピック開催との比較
検討が必要と考え、1998年に行わ
れた長野オリンピックを対象に、都市
とスポーツを専門とする社会学者の
共同研究を2008年からスタート
させました。本書は長野県での現地
調査(フィールドワーク)の結果をま
とめたものです。

県民をはじめ多くの人びとが、大
会そのものには興味を持ちますが、大
会とともに生み出された正負の遺産
に目を向けることはあまりありませ
ん。例えば競技施設がどのように維
持され、活用されていくのか、新幹線
や高速道路建設を含むインフラ整備
が地域にどのような影響を与えるの
かといった、実生活に結びつくこと
すらこれまで十分に検証されること
はありませんでした。
長野大会は長野市をはじめとする
広域で開催されました。オリンピッ
クの受け止め方は地域それぞれで異な
ります。無駄を生み出してしまおうオ
リンピックの負の側面を検証しなが
ら、地域が生み出したさまざまな遺産
の継承についても描き出しています。
東京大会のことを考える一助になれば
幸いです。

干潟の絶滅危惧動物図鑑
—海岸ベントスのレッドデータブック—



和田 恵次
理学部
化学生命環境学科
教授
東海大学出版会
2012年7月発行
4800円(税別)

日本の海岸線は、ことごとく人為的
改変が進み、中でも、基質が砂や泥の
干潟海岸は、その影響を最も強く受
け、そこをすみかとする生物の絶滅を
招かしてきました。1996年に私が
10名のベントス研究者らとともにま
とめた「日本における干潟海岸とそこ
に生息する底生生物の現状」(WWF
Japan Science Report, Vol.3)
は、日本で最初の干潟のレッドデー
タブックとして、海の無脊椎動物の保全
に貢献してきました。この報告書を
ベースに、日本ベントス学会が、最新
の情報を出来るだけ多く取り入れる
べく、多数のベントス研究者を動員し
て干潟の動物ベントスのレッドリスト
種をまとめ上げたのが本書です。取

り上げられた種の数は651種にの
ぼり、種ごとに、正確な学名と、絶滅
の危機の評価付けとその根拠、そして
日本国内における分布の現状が、鮮明
な写真とともに記載されています。
私は、15種のカニ類を担当執筆してい
ますが、このうちタイワンヒライソモ
ドキアリアケモドキ、カワスナガニ、
クマノエミオスジガニ、チゴイワガニ、
シオマネキ、ハクセンシオマネキでは、
私の研究室での研究成果が掲載記事
に反映されています。本書に掲載さ
れている写真は、いずれも鮮明で美
しく、単なるレッドリストにとどまら
ず、干潟の動物ベントスを調べるため
の図鑑としても有用です。

こんな本を出しました 教員著書紹介

本学教員が執筆した図書をご紹介します

日本語活字印刷史



鈴木 広光
文学部
言語文化学科
教授
名古屋大学出版会
2015年2月発行
5800円(税別)

私たちは本や新聞など印刷物が与
えてくれる「情報」に随分とお世話
になっています。けれども、不思議な
ことに「情報」が物理的に纏っている
「すがたたち」(スタイル)に、人々
の関心が向けられることがほとんど
ありません。外見より内容が大事と
いうわけです。
歴史を江戸時代の木版本までさか
のぼってみると、状況は一変し、文字
のスタイルやフォーマットそのものが
ジャンルや文体の証しだったことがわ
かります。ところが明治に入ってから
西洋式の活版印刷術が導入されると、多
様な文字のスタイルやフォーマットは
次第に画一的なものになり、「すがた

かたち」の持つ意味は失われていきま
した。最大の要因は、私たちがふだん
書籍や新聞で見慣れている明朝体が
日本語を表現するための標準書体にな
ったからです。明朝体は中国で生ま
れましたが、これを金属活字の印刷術
に載せたのは西洋人でした。背景には
キリスト教布教や植民地主義など西
洋人の世界進出があります。そして
日本に導入されて以降、平仮名は明
朝体の漢字に合うように設計されま
した。
この本を読んで、活字開発の背景に
は政治、宗教、文化などの歴史がある
ことを知っていたできれば幸いです。

歴史を読み替える
—ジェンダーから見た世界史—



三成 美保
みつなり みほ
生活環境学部
生活文化学科
教授
大月書店
2014年5月発行
2800円(税別)

歴史を読み替える
ジェンダーから見た
世界史
三成美保・姫岡とし子・小浜正子 編

本書は、高校世界史教科書をベース
にしたジェンダー史の通史で、他に類
書はありません。日本学術会議公開
シンポジウム「歴史教育とジェンダー」
(2009年12月)を機に企画をあた
ためはじめ、科研費基盤研究(B)を
取得して共同研究を深めました。ジェ
ンダー史成果を歴史教育で活用する
ためのサブテキストというコンセプト
に基づき、見開き2ページ(左ページ
に本文、右ページに史料・図版・コラ
ムなどを1単位として利用の便をは
かりました。
冒頭の「総論」ではジェンダー史の
方法論と理論を取り上げ、古代から
現代にいたる全15章は「概説」「各論」
「特論」からなります。「特論」では、
宗教・身体・科学・家族・ファッション・映
画など時代を超えたトピックによって
ジェンダー史の可能性を示しました。

執筆者は総勢20名。現時点での日本
におけるジェンダー史研究の成果を
盛り込んだものになったと自負して
います。2015年1月には、姉妹編
の久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵
編「歴史を読み替える—ジェンダーか
ら見た日本史」も刊行されました。
歴史をジェンダー視点から読み替
えることは、「市民教養」としての歴
史学を発展させるためにも不可欠で
す。「市民への発信」という課題に応
えるべく、本書刊行にあわせて比較
ジェンダー史研究会Hd (<http://ch-bender.jp/wan/>)を開設しました。
本年度からは科研費基盤研究(A)に
より本書の内容をいっそう発展させ、
日本から「ジェンダーの世界史」を世
界に向けて発信することを目ざして
います。

トビタテ!留学JAPAN 第2期プログラムに本学の学生が2名選ばれました!!

～トビタテ!留学JAPANとは～

2014年からスタートした海外留学支援制度で、政府が官民協働で取り組んでいます。2020年までの7年間で約1万人の高校生・大学生が「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」の派遣留学生として送り出される計画です。派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し、「産業界を中心に社会で求められる人材」、「世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材」へと育てます。帰国後は海外体験の魅力を伝えるエヴァンジェリスト(伝道師)として日本全体の留学機運を高めることへの貢献が期待されています。以下では、本学から選出された2名の学生の、応募から事前研修までの様子を紹介します。



第2期派遣留学生壮行会の様子

山田 美奈都(やまだ みなと)
生活環境学部住環境学科 3回生
出身高等学校:兵庫県立兵庫高等学校



わたしの留学計画

ノースカロライナ大学グリーンズボロ校での交換留学生としての滞在中にあわせ、ニューヨーク、フロリダ、ポートランドでインターンシップ等の実践活動をする予定です。住環境学科に属していますが、その専攻のみにとらわれず、大学では新しくマーケティングを専攻したり、新たなことにチャレンジしてゆくことが今回の留学での目標です。

この制度を知ったのは大学で掲示されていたポスターでした。なんとなくデザインのかわいいポスターだと思いついてみると厚い奨学金やサポートが受けられることを知り、とりあえず応募だけしてみようという気持ちでスタートしました。しかし大学の交換留学も申請中で結果がまだ出ていない段階での応募でしたので、交換留学の応募とトビタテ留学JAPANの応募がほぼ同時期で、書類の作成がとてみたいへんでした。

二次審査は東京で行われました。面接約20分、プレゼンテーションまたグループディスカッションがそれぞれ5分ずつありました。面接はマンツーマンで大きな部屋に何十ものブースが用意されていました。想像していたよりもリラックスして面接官の方という話がありました。プレゼンやディスカッションも初めてのことで正直どんな準備をしていいのかわからず臨みましたが、その場でしっかり人の意見を聞き自分の意見を伝えるようにしました。

東京の霞ヶ関の文部科学省で行われました。本当に個性豊かな仲間がたくさんで、コミュニティがかなり広がりました。

二日間朝から晩までみっちりのスケジュールで研修を受けました。ここで初めて自分以外の人のプランを知り、お互いに簡単なプレゼンやフィードバックを繰り返し、プランがかなりブラッシュアップされました。世界で活躍されるヤンググローバルリーダーの方々のパネルディスカッションなどもあり刺激を受けました。自分が本当に大事にしている自分の「軸」も見つめ直すことができ、自分についても意外な発見がたくさんありました。

応募・書類選考

面接

合格

壮行会

事前研修

長谷川 佳奈(はせがわ かな)
生活環境学部生活文化学科 2回生
出身高等学校:名古屋市立向陽高等学校



わたしの留学計画

「日本におけるエコツーリズムの普及と発展」をテーマに、奈良女の派遣留学制度を利用した交換留学と、環境ボランティアを組み合わせた計画を立てています。留学先のアメリカのノースカロライナ大学グリーンズボロ校ではツーリズムについて学びます。さらに、コスタリカの国立公園でボランティアを行い、エコツーリズムの現場を体験します。

「日本代表ってなんとなくかっこいい!!」「奨学金もらえると嬉しいなあ」と思い、「とりあえず応募だけでもしてみよう」とわりと安易な気持ちで応募を決めました。しかし、応募のための書類作成がとてもたいへんでした…。自分の留学計画についてはもちろん、今までの困難の克服の経験について等、さまざまな項目がありました。この書類の作成は、自分の留学目的や自分自身を見直す良いきっかけだったと今は思います。

書類審査の次は面接審査ということで、東京まで受けに行きました。面接会場にはわたしと同じように留学する人たちがたくさんいるんだと思うと、同志のような気がしたのを覚えています。面接官と一対一の面接に加え、留学計画のプレゼンや1つのテーマについて議論するグループディスカッションを行いました。

トビタテの奨学生が一堂に会して、文部科学大臣等さまざまな方から激励をいただきました。たくさんの方々のご支援のおかげで自分は留学できるのだと気が引き締まる思いがしました。

留学の心構えを教わったり、留学計画のブラッシュアップをしました。トビタテの奨学生は熱意のある人・個性豊かな人が多いので、良い刺激をたくさん受けました。研修は1泊2日だったので、交流も深まりました。(このコミュニティはトビタテならではのコミュニティです!)留学までにすべきことが定まったのが大きな成果でした。

これから募集があるのは第4期生!
あなたもあとに続け!!
トビタテ!留学JAPAN 検索

留学実現!トビタチます!! 8月出発予定

クラブ紹介

書道部

部長
山本 千尋
やまもと ちひろ
理学部情報科学科4回生
出身校:石川県小松高校出身



奈良女子大学書道部は、20名を超えるメンバーで和気あいあいと活動しています。最も大きなイベントは、秋に開催している展覧会である「墨香展」です。「墨香展」では主に、毎年2泊3日で行う夏合宿の際に書いた作品を展示しています。本年度は昨年まで使わせていただいていた記念館が工事中のため、佐保会館をお借りして11月末に行う予定です。また、昨年初めての挑戦で大成功することができた窓都祭での書道パフォーマンスや、今年で2回目となる旧鍋屋交番での「May展」など、活動の場を広げています。



昨年の学祭での書道パフォーマンス

書道には、楷書、行書だけでなく、昔から使われてきた様々な書体があります。さらに、まささらな紙に書くだけが書道ではありません。この奈良女子大学書道部には、今までの型にはまった書道だけでなく、一人一人が楽しみながら、新しい創作作品を生み出すことができるという良さがあります。絵を描くのもよし、色を使うのもよし、紙に書かなくてもよし、何をしてもいいという可能性の大きさが書道の大らかな魅力の一つであることを、私自身この

書道部で実感しています。また、仲間と一緒に、共同作品の制作や、展覧会の準備、書道パフォーマンスの練習をすることも、楽しみの一つです。自分では思いつかないような面白い作品に刺激されながら、「次はどうしようか」とわくわくでき、納得するまで書道に向き合うことができるこの書道部に居心地の良さを感じています。これからも「楽しく」をモットーに古都奈良の地で書に親しんでいきたいです。

学生表彰

奈良女子大学では、課外活動や社会的活動などで特に顕著な成果を挙げた学生の個人又は団体を年に一度表彰しています。平成26年度の表彰式が、平成27年2月12日(木)に行われました。受賞者・団体は以下の通りです。(学年は平成26年度のものです。)

【個人表彰者】

氏名	所属	サークル等	表彰対象となった業績
伊藤 愛恵	理学部数学科3回生	合気道部	第45回全日本学生合気道競技大会 演武競技女子対武器の部 優勝(H26.10.19) 第33回関西学生合気道新人競技大会 演武競技女子対武器の部 準優勝(H25.11.24) 第33回関西学生合気道競技大会 演武競技女子対徒手の部 第3位(H25.6.9) 第34回関西学生合気道競技大会 演武競技女子対徒手の部 第3位(H26.6.8)
山本 愛莉	理学部数学科3回生	合気道部	第33回関西学生合気道競技大会 演武競技女子対徒手の部 第3位(H25.6.9) 第34回関西学生合気道競技大会 演武競技女子対武器の部 第3位(H26.6.8)
青木 麻衣	文学部人間科学科3回生	合気道部	第45回全日本学生合気道競技大会 演武競技女子対武器の部 優勝(H26.10.19) 第33回関西学生合気道新人競技大会 演武競技女子対武器の部 準優勝(H25.11.24) 第34回関西学生合気道競技大会 演武競技女子対武器の部 第3位(H26.6.8)
西浦 菜里	文学部言語文化学科3回生	合気道部	第45回全日本学生合気道競技大会 演武競技女子対徒手の部 第3位(H26.10.19)
西 美春	文学部言語文化学科3回生	合気道部	第45回全日本学生合気道競技大会 演武競技女子対徒手の部 第3位(H26.10.19) 第34回関西学生合気道競技大会 演武競技女子対徒手の部 第3位(H26.6.8)
中居向 朝海	理学部生物科学科2回生	硬式テニス部	第38回奈良学生テニス選手権大会 女子シングルス 第1位(H26.11.29) 第38回奈良学生テニス選手権大会 女子ダブルス 優勝(H26.11.30)
西村 和紗	理学部情報科学科4回生	硬式テニス部	第38回奈良学生テニス選手権大会 女子ダブルス 優勝(H26.11.30)
氏家 京香	生活環境学部心身健康学科1回生	なぎなた部	第39回西日本学生なぎなた選手権大会 演技の部 第2位(H26.11.16) 第33回関西学生なぎなた選手権大会 個人の部 二・三段 第3位(H26.6.15)
瀧美 麻衣	理学部数学科4回生	なぎなた部	第39回西日本学生なぎなた選手権大会 演技の部 第2位(H26.11.16)

【団体表彰者】

サークル等	表彰対象となった業績
弓道部	第52回近畿地区国立大学体育大会 弓道の部 女子 優勝(H26.8.28)
剣道部	第52回近畿地区国立大学体育大会 剣道の部 女子団体 第3位(H26.8.17)
ソフトテニス部	第52回近畿地区国立大学体育大会 ソフトテニスの部 女子団体 第3位(H26.8.28)
卓球部	第52回近畿地区国立大学体育大会 卓球の部 女子団体 準優勝(H26.8.5)
バドミントン部	第52回近畿地区国立大学体育大会 バドミントンの部 女子 準優勝(H26.8.20)
音楽部	第69回関西合唱コンクール 大学戦場一般部門 大学ユース合唱の部 少人数 銀賞(H26.10.12)



平成28年度入試情報

大学院博士前期課程・後期課程の入試についてはホームページをご覧ください。

▶ http://koto.nara-wu.ac.jp/nyusi/nyusi2_b.html

Table with columns: 学部, 学科等, 入学定員, 日程区分・募集人員 (一般入試, AO入試, 推薦入試, 私費外国人留学生入試), 学べる内容. Rows include 文学部, 理学部, 生活環境学部.

備考 (1) 文学部においては、前・後期日程とも、学科別の志望は認められません。第2年次から各学科に所属することになります。その際、定員を超過する学科については選考を行うことがあります。なお、AO入試については、本学が指定する2つの分野の中から1つを選択して志望してください。

公開講座 公開講座情報のご紹介

今夏以降開催の公開講座を紹介します。詳しくはホームページでご確認、または社会連携センター (tel:0742-20-3968) までお問い合わせください。

▶ http://www.nara-wu.ac.jp/liaison/lecture/info4.html

Table with columns: 講座名, 開催日, 会場, 受講対象者, 募集人数, 受講料, 初級・中級連続の場合. Lists various courses like HTML&CSS, Microsoft excel, Adobe illustrator, etc.

学生の就職活動の現況と奈良女子大学の取り組み

奈良女子大学では、学生が卒業後に社会の第一線で活躍できる高度専門職業人となるために、在学時から将来を見据えてキャリアを形成・開発するとともに、自立した人間として「考え・判断し・行動できる力」を養っています。あわせて、幼稚園から高等学校までの教職課程を設けており、また所属する課程によっては、栄養士や管理栄養士(受験資格)等の各種資格を取得することができるため、卒業生はこれらの資格を生かして、社会の様々な舞台で活躍しています。

平成26年度の実績 (詳しくはhttp://koto.nara-wu.ac.jp/syusyoku/syusyoku.htmをご覧ください)

- 文学部 : 就職者127名(就職率85%<前年度91%>) : 大学院進学者33名
■ 理学部 : 就職者78名(就職率88%<前年度92%>) : 大学院進学者87名
■ 生活環境学部 : 就職者118名(就職率98%<前年度95%>) : 大学院進学者32名
■ 大学院博士前期課程 : 就職者117名(就職率85%<前年度89%>) : 博士後期課程進学者10名



Table with columns: 学部, 学科等, 就職先. Lists various companies and organizations where graduates are employed, categorized by department like 文学部, 理学部, 生活環境学部, 大学院博士前期課程.

※上記は主な就職先企業です。

下市町・十津川村・野迫川村と 包括連携協定を締結しました

奈良女子大学は奈良県吉野郡下市町、同郡十津川村、同郡野迫川村とそれぞれ包括連携に関する協定を締結(下市町:2月16日、十津川村:3月26日、野迫川村:4月1日)しました。今後、三町村の行う地域社会の活性化、産業の振興、教育・文化の振興および人材育成に関する事項や、本学が行う地域を志向した教育・研究および地域貢献事業などについて相互に連携・協力し、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の創成・発展を目指していきます。



2月16日 下市町と包括連携協定を締結



3月26日 十津川村と包括連携協定を締結

本学の公式Twitter・Facebook ページを開設しました

この度、本学ではTwitter(ツイッター)およびFacebook(フェイスブック)の公式ページを開設しました。イベント情報や大学の最新ニュース等をお届けしていきますので、是非フォローをお願いします。



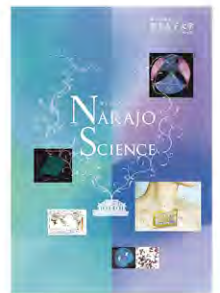
国立大学法人奈良女子大学Facebook

～理系分野への進学を

検討している受験生へ～

『ならじよサイエンス』を発刊しました

奈良女子大学は、理系分野への進学を検討している受験生向けに小冊子『ならじよサイエンス』を発刊しました。本冊子では、理系進学を目指す受験生の皆さんに向け、本学における理系分野、3学部8学科での学びについてご紹介しています。



「ならじよサイエンス」表紙

本学学生が、ラクロス22歳以下の女子日本代表に選出されました

文学部人間科学科スポーツ科学コースに在籍する小引千尋さん(4回生)が、ラクロスの2015年22歳以下女子日本代表に選出されました!

小引さんは大学入学後からラクロスを始めました。今年の1月に全国から30名の代表候補者が選ばれ、2月～5月に行われた代表候補者の選考を兼ねた練習会・強化合宿を経て、候補者の中から18名の最終メンバーに選ばれました。

今後、2015年22歳以下女子日本代表は、7月4日(土)～11日(土)にタイで開催される第7回APLUアジアパシフィック選手権大会に出場します。



文学部人間科学科スポーツ科学コース4回生
小引千尋さん

次回予告

次号は「奈良女の食」特集を企画しています。お楽しみに!

今号の特集では、新しい取組を
新人スタッフも交え取材しました。
ならじよも時代に即した新し
い形を求め日々研鑽中です。が、そ
の「核」は大事にしたいという思い
を、読者にも新スタッフにも伝え
られたらと感じています。⑤

今回、私は初めて「ならじよToday」の編集に携わりました。
私自身、ならじよについて知らない
ことばかりなので、今回の編集
は、ならじよのことを知る良い
きっかけになりました。上のトピッ
クス欄では、地域との連携、最先端
SNSの導入、理系分野進学向け
冊子の発刊、本学学生のスポーツ
面での快挙と、幅広いならじよの
顔ぶれを伝えることができました。
これからも取材を通じて、どんな
ならじよの表情を垣間見られ
るのが、非常に楽しみです。⑥

今回の特集企画のひとつ、理系
女性教育開発共同機構。理系の進
路選択の可能性を拓け、理系の女
性リーダーを育てることはもちろ
ん、論理的に物事を考える際の助
けとなる理系の素養を文系理系問
わず身につけさせる、という重要な
役割を担っています。今回の取材を
通じて学んだ理系分野の大切さを、
「理系はムリー」と早々に諦めた
中学生時代の自分に教えてあげた
くなりました。⑦

編集後記

